

柏市立朋生園指定管理者制度選定委員会会議録
(非公開により開催)

1 開催日時

令和7年10月6日(月) 午前8時55分～午前11時35分

2 開催場所

柏市役所本庁舎3階 庁議室
(柏市柏五丁目10番1号)

3 出席者

(委員)

染谷副市長(委員長), 小島企画部長(副委員長), 鈴木総務部長, 中山財政部長, 矢部福祉部長, 後藤障害福祉課長,

【外部委員】嶋田委員, 【外部委員】堀内委員

(財務分析)

甲州公認会計士

(事務局)

野村副参事, 小野専門監, 阿部担当リーダー, 野戸副主幹

4 議題

(1) 選定委員会の開催趣旨と審査方法

選定委員会の開催趣旨

審査及び評価の方法

(2) 書類審査について

資格審査

財務状況分析結果

提案内容の審査

(3) 面接審査について

(4) 候補者の選定について

5 議事(要旨)

開会の挨拶, 委員の自己紹介を行い, 議題に入る。

議題(1)は意見・質問なし。

議題(2)の資格審査は, 資料2について事務局から説明を行った。

その際に表明された意見はなし。応募のあった団体が応募資格を

満たしていると認められた。

財務状況分析結果は、資料 5 について甲州公認会計士から説明を行った。その際に表明された主な意見は、次のとおり

- ・（小島企画部長）応募団体について、短期的には問題ないという評価だったが、財務状況の健全性、安定性を評価する際に 5 段階評価で 3 を標準とした場合、評点としてはどのくらいが妥当と思われるか。

- ・（甲州公認会計士）本団体は美南園閉園による影響から赤字に反転しているため、標準を下回って 2 が妥当だと思われる。このあとの面接審査で赤字を解消する具体的な策がなければ、更に低くなる可能性はある。

提案内容は、資料 3 について事務局から説明を行った。その際に表明された主な意見は、次のとおり

- ・（鈴木総務部長）今回一者応札になった要因をどう考えるか。

- ・（事務局）東葛管内に幅広く募集をかけたが、全国的にも福祉業界は人材不足であり、新規事業に手を出す余力がないという現状が要因であると考えている。

- ・（鈴木総務部長）自主事業に日中一時支援事業とあるが、これと指定管理事業との違いは。

- ・（事務局）指定管理事業は、障害者総合支援法に定められている就労継続支援 B 型事業と生活介護の 2 事業になる。

自主事業の日中一時支援事業は、社会福祉法人かたくり会が自主的に実施する事業になる。平日の夕方から午後 8 時までは、カラオケやテレビ鑑賞等の余暇活動や夕食を提供し、土曜日の日中は、時々外出する等の余暇活動支援や家族のレスパイト支援を行っている。

議題(3)面接審査は、応募団体のプレゼンテーションがあった。

応募団体の社会福祉法人かたくり会のプレゼンテーションは次のとおり。

- ・朋生園は就労継続支援 B 型と生活介護の多機能型施設になる。

・運営方針について、施設の良いところは、集団生活ができるところ。仲間作りが苦手な知的障害者にとって、協調性が養われる。協調性はとても大事で、コミュニケーション能力の向上も見込まれる。生活介護は、集団生活の中で、一人ひとりを大事にし、個性を重んじていくことを基本方針としている。就労継続支援B型は、社会的自立を目的とし、社会のルールを身につけられるようにしている。利用者は潜在能力があると考えているので、どうせできないだろうという決めつけをやめ、潜在能力の開発をしていきたい。

・一括指導ではなく、それぞれの個性や障害の程度によったグループ分けをして指導していく。

・利用者の高齢化が進んでいる。特に知的障害者は機能低下が早く始まり、進行速度も早いと言われているため、歩くのが遅くなったなどの個々の具体的な事例に沿ったりハビリや指導方法について、専門の先生から学べる職員研修に力を入れている。

・高齢化は利用者のみならず、保護者も進んでいる。保護者が入院したり、送迎が出来なくなったりした家庭に対して、どう支援できるのか検討、対応していきたい。また、一律的な支援ではなく、多様化している支援をオーダーメイドでしていきたい。

・工賃向上を目指したい。社会人と同じように働く意欲を高めていきたい。

・施設の意義について、基本は社会的な居場所だと思う。本法人は、特別支援学校卒業後に居場所を作りたいと思い、この事業を始めた。これからも他施設や関係者と連携し、地域から応援していただけるような施設になることが大切だと思う。

・法人の特徴について、月1回情報交換や各園の状況を共有する施設長会議を開催している。また、専門委員会制度を取り入れ、職員研修の企画運営をしている研修委員会、広報紙を発行している広報委員会、ウォーキング大会などを企画運営している行事委員会、利用者の機能低下などを把握し、データ集計などを行っている健康保健委員会、災害に備える防災委員会を開催し、課題等を把握し、現場に反映するようにしている。これにより、各事業所間が親密に連携がとれ、互いの状況を把握できている。

・市立朋生園としての１５年の実績もあるが、市立のネーミングは信頼度が高く、知名度がある。地域の人たちにも親しみやすく、応援に来てくれたり、毎月のようにボランティア、インターンなどいろいろな人が来所してくれて、千客万来で、地域に根付いていると感じている。公設という責任もあるので、これから何をやるべきか、課題を把握し、しっかりと運営してまいりたい。

応募団体の提案内容について、表明された意見は次のとおり。

- ・（中山財政部長）まず、資料から収支計画書の人件費が５年間横引きで来ているが、昨今の最低賃金の向上や物価高の中、この見込みで安定した運営は大丈夫なのか。次に、自主事業の収入を１，０００万円計上しているが、その中に利用者負担金収益５００万円とある。これは指定管理事業とは関係なく、自主事業部分のみの収入と考えていいのか。また、令和６年度の美南園の廃園がかたくり会全体の収支に影響を与え、経費が収入を上回るなどの赤字が懸念される。特に人件費比率が高まっていると見受けられるが、利用者が減った分の職員の削減など、何か収支改善策は見込まれているか。
- ・（社会福祉法人かたくり会）まず、人件費が高騰していく中での対応については、法人内の複数の事業所の中で職員の配置を流動的にしていき人件費を抑えていくとともに、正規の職員を補佐する非常勤職員を増やしていくことを考えている。次に、自主事業の１，０００万円については、自主事業の日中一時支援事業の収入であり、指定管理料とは別の収支計算としている。そこでの収入にある５００万円の利用者負担金については、利用者の昼食のお弁当代であり、一旦は預かるため、収入に計上してあるが、そのままの金額を業者に払うことになるので、園の収入にはならないものである。そして、廃園した美南園の影響についてだが、確かに赤字が続いている。美南園が多機能型だったため、就労継続支援Ｂ型の利用者はあすか園に、生活介護の利用者は朋生園で引き受けている。これにより、利用者が増えても指定管理料は一定で増えない状況の朋生園やあすか園は定員を一時的に４０名から６０名に増員したことで単価が減っているため、赤字になっている

状況である。よって赤字解消のため、今後、一ツ木園やひびき園、ひまわり園など利用者の希望に沿った園に転園することや今ある事業所を多機能型にするなどの検討をしていく。

- ・(障害福祉課長) 高齢化している利用者に対する相談体制や今後の受け入れ先はどうなっているか。次に、工賃向上のための計画及び現状や実績はどうなっているか。
- ・(社会福祉法人かたくり会) 高齢化問題については、家族の高齢化により、親が倒れたり、入院されたりなど、家で看るのが難しくなったために、令和6年度は3名の利用者が入所施設に行き、退所になっている。その他、家族が利用者の将来を見据えてグループホームに2名入所した。これらの受け入れ先については、他の法人やグループホームの相談員などと連携を取りながら進めている。

また、工賃向上については、令和6年度平均工賃は13,378円になった。収入源である花類はコロナ時に減ったが、昨年度から持ち直してきており、既に昨年度の注文数を超えている。地域の方からもお花を植えたいと注文がある。他にも市から除草作業の注文があり、今年度は昨年度よりも収入が増えている。

・(嶋田委員) サービス向上について、利用者や保護者会からの要望を聞いて改善を図るということだが、今年度の改善にはどのようなものがあるか。次に、人材育成について、職員への研修は、代表職員が他の職員に周知させるとあるが、昨今の全国的な職員の不祥事等を耳にする機会が多いことを踏まえ、職員全体への研修を行う予定はないのか伺いたい。また、職員が向上心を持てるように個々に課題を課すとあるが、課すという表現ではモチベーションを上げるのが難しくなると思われるが、課題をもつということは大切だと思うので、どのようにやるのかを伺いたい。最後に、市の方針への理解と協力について、公共施設であるということ、特に何が重要だと理解しているのか伺いたい。

・(社会福祉法人かたくり会) サービス向上について、年8回の全体の保護者会、半期ごとに生活介護と就労継続支援B型に分けて保護者会を開催し、意見や要望を聞いている。他にも、年1回、相談会を行い、保護者から30分から1時間くらい話を聞いている。

る。その際に多く出されている要望は、B型も送迎をしてもらいたいということで、検討しているところである。また、11月にアンケートを実施し、法人の運営状況や日中活動への思いなどを把握し、結果を運営に活かしている。人材育成については、特に外部の研修に職員全員が出席することは難しいので、代表者が受講している。法人全体としては、6月と2月に年2回、感染症への対応や虐待防止、高齢化に伴う機能低下に対する個別支援や成年後見人制度などの研修を実施している。他にも、柏市内、東葛地区内の施設見学をするなど事業所間の連携を図っている。また、職員に課題を課すというのは、法人として全体・生活介護・就労継続支援B型毎の目標に対して、一年間自分がどのように関わっていくかという決意を目標にしており、厳しいものではない。市の方針については、福祉事業の原点に立ち戻って、障害を持つ人を支援する。今の生活が変わらないように支援し続けていくことが大事だと考えている。そのためにもいろいろな事業所との連携を進めていく。ノーマライゼーション計画に4つの柱があることなども理解し、可能な限り利用者のプラスになるように協力していく。

・(堀内委員)生活介護の支援にグループ分けの支援とあるが、分け方は年齢や支援程度などどうしているのか。次に、就労継続支援B型について、先ほど話がでた送迎をするかどうかや、自主製品の種類や販路拡大、事業内容の見直しなど工賃向上のための策をした場合に、財政的にやりくりが可能なかどうか。

・(社会福祉法人かたくり会)グループ分けは、生活介護支援で進めようと9月の研修会で検討した。20～60歳代の幅広い年齢層の利用者がいる中、体力的視点からだと支援者の主観が入り、年齢別では支援程度がバラバラになるので難しいという話になった。その後、9月後半に柏厚生病院の理学療法士に利用者の食事や活動の様子を見てもらい、どういったグループ分けがよいか検討を進めているところである。11月には家族会に理学療法士をお招きして、みんなで講義を聞いて考えることにしている。

就労継続支援B型の送迎は現在していないが、今後、利用者個々の事情や必要性に応じて検討していく。工賃向上に向けた自主製

品については、刺し子布巾がある。作成できる利用者が少なくなっているため縮小傾向にあるが、地区社協で敬老の日の記念品にしていたり、作品作りにやりがいを感じていたりするので、できる範囲で続けていく。他には、花の需要が増えてきている。パンジーやビオラは地域や公園の花壇を管理する自治会が増えてきているようで求められている。また、朋生園が得意としている紅白の葉牡丹も喜ばれている。今後も引き続き栽培していくため、利用者の確保や職員の技術の継承を大事にしていく。

・（福祉部長）人員体制について、社会全体的に福祉人材が不足している中で、人員体制の工夫を伺いたい。また、法人全体での不足分はどう確保しているか、確保に向けた計画があるかを伺いたい。

・（社会福祉法人かたくり会）人員体制は、朋生園は他の事業所に比べ、指定管理事業で市からの指示もあり、人員は多い。ただ、人件費が高くなるという財政的な問題から朋生園にだけパート職員がいる。ただ、人や仕事が大好きなパート職員が来ているので助かっている。しかし、パート職員は勤務時間が短いため、利用者の担当が持てないことや会議に出られないなどの課題を把握している。

・（総務部長）障害者施設ということで、防災体制はどうなっているか伺いたい。

・（社会福祉法人かたくり会）朋生園は福祉避難所になっているため、水やトイレ等の備蓄品も準備されている。また、法人内に防災委員会があるので、備蓄品の把握や必要に応じた対応等をしていく。他にも、感染症対策に健康保険委員会でしっかり対応できるように取り組んでいる。避難訓練も年に複数回実施しているが、利用者がなぜ避難するのか、何が起きているのかを理解するのが難しいという課題があるため、ケースごとに対応策について検討を重ねているところである。

・（染谷副市長）委員に質問を聞くが、特になし。プレゼンテーションはこれを以って終了とする。

（４）候補者の選定について

- ・事務局から各委員からの評価表集計結果を報告。

社会福祉法人かたくり会は３８６点。

欠格事由に該当の可能性のある１点をつけられた委員はいませんでした。

- ・（染谷副市長）ただいまの説明にご質問、ご意見はありますか。委員からの質問、意見はなし。

- ・（染谷副市長）ご質問、ご意見はないようですので、社会福祉法人かたくり会を指定管理者候補者としてと思いますが、よろしいでしょうか。

委員からは異議なし。

- ・（染谷副市長）それでは、柏市立朋生園の指定管理者候補者について、社会福祉法人かたくり会とします。

- ・（事務局）以上で、指定管理者候補者選定委員会を終了します。長時間にわたり、ご審議いただき、ありがとうございました。

閉会